

(様式第 10)

分大医総病第 33 号
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

大分大学医学部附属病院
開設者名 病院長 津村 弘 (印)

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏 名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘一丁目1番地	電話(097)549-4411
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 神経内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 内分泌・糖尿病内科 5 血液内科 6 腎臓内科 7 リウマチ科・内科 8 腫瘍内科 9 循環器内科 10 アレルギー科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1 乳腺外科 2 消化器外科 3 形成外科 4 呼吸器外科 5 心臓血管外科 6 小児外科 7 腎臓外科 8 頭頸部外科 9 10 11 12 13 14		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制 歯科医師を有する		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 児童精神科 2 神経小児科 3 病理診断科 4 リハビリテーション科 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	236人	182人	399.0人	看護補助者	35人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	10人	15.8人	理学療法士	9人	臨床検査技師	50人
薬 剤 師	35人	1人	35.3人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	1人	0人	1.0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	23人	0人	23.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	624人	29人	645.0人	臨床工学士	17人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	1人	事務職員	167人
管理栄養士	7人	0人	7.0人	診療放射線技師	34人	その他の職員	53人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	7人	眼科専門医	10人
外科専門医	32人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	17人
小児科専門医	14人	脳神経外科専門医	13人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	19人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	5人
		合 計	183人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	500.8 人	9.2 人	510.0 人
1日当たり平均外来患者数	952.1 人	52.9 人	1005.0 人
1日当たり平均調剤数			1895.1 剤
必要医師数			110.205 人
必要歯科医師数			5 人
必要薬剤師数			24 人
必要(准)看護師数			290 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	173 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	64 m ²	病床数	3 床	
	[移動式の場合]	台数	19 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	45 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	241 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学・免疫・血液自動分析装置 他			
細菌検査室	161 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置, 同定・薬剤感受性検査装置 他			
病理検査室	109 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置, 顕微鏡 他			
病理解剖室	283 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台, 撮影装置 他			
研究室	4,464 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン, 机, 顕微鏡 他			
講義室	1,635 m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	収容定員	1,495 人
図書室	1,703 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	蔵書数	98,776 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	71.3 %	逆紹介率	59.5 %
算出根拠 A: 紹介患者の数			9,074 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,328 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			907 人
D: 初診の患者の数			13,998 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節をエコーガイド下に穿刺吸引生検、診断を行う。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下経気管支肺	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要 ナビゲーションシステムを用い、病巣との関与が考えられる気管支を同定、気管支鏡検査時間の短縮を図る。ナビゲーションの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的病変に確実に的中させ、ガイドシースを留置、同病変からの繰り返し生検を行えるようにする。			
医療技術名	悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行うことにより、リンパ節転移の効率的な検索をおこな			
医療技術名	超肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 超肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者を対象として、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術(胆膵バイパス術)の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	54人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	44人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	49人	・原発性胆汁性肝硬変	34人
・全身性エリテマトーデス	183人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	58人
・再生不良性貧血	17人	・混合性結合組織病	29人
・サルコイドーシス	196人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・特発性間質性肺炎	45人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	122人	・網膜色素変性症	15人
・特発性血小板減少性紫斑病	35人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	19人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	75人	・神経線維腫症	31人
・大動脈炎症候群	13人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ピュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	15人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	22人	・ライゾーム病	2人
・クローン病	35人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	11人	・脊髄性筋委縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	68人	・球脊髄性筋委縮症	2人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	45人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	33人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェゲナー肉芽腫症	11人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	5人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	33人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	60人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・退院調整加算
・歯科外来診療環境体制加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2(200床以上の病院)
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1)	・救命救急入院料3及び「注3」、「注5」に掲げる加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟15対1)	・特定集中治療室管理料4
・臨床研修病院入院診療加算の基幹型(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・新生児特定集中治療室管理料1
・臨床研修病院入院診療加算の単独型又は管理型(歯科診療に係るものに限る。)	・小児入院医療管理料2
・救急医療管理加算	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算1	・
・50対1急性期看護補助体制加算	・
・看護補助加算1(30対1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・胎児心エコー法
・高度難聴指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・喘息治療管理料	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・光トポグラフィー(脳外科手術の術前検査に使用するもの)
・がん患者指導管理料1	・光トポグラフィー(抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの)
・がん患者指導管理料2	・神経学的検査
・がん患者指導管理料3	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・ニコチン依存症管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・地域連携診療計画管理料(脳卒中に限る)	・小児食物アレルギー負荷検査
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・内服・点滴誘発試験
・ハイリスク妊産婦共同管理料(II)	・センチネルリンパ節生検
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)	・大腸CT撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心臓MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算(IV)	・外来化学療法加算1
・遺伝カウンセリング加算	・無菌製剤処理料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)及び初期加算
・植込型心電図検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)及び初期加算
・時間内歩行試験	・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・がん患者リハビリテーション料	・補助人工心臓
・精神科作業療法	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・経皮的冠動脈遮断術
・医療保護入院等診療料	・ダメージコントロール手術
・透析液水質確保加算1	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・一酸化窒素吸入療法	・体外衝撃波胆石破碎術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・同種死体腎移植術
・網膜再建術	・生体腎移植術
・人工内耳植込術	・膀胱水圧拡張術
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・経皮的冠動脈形成術	・医科点数表第二章第十部手術通則第5号及び第6号並びに歯科点数表第二章第九部手術通則第4号に掲げる手術の施設基準
・経皮的冠動脈ステント留置術	・輸血管理料 I
・経皮的冠動脈弁置換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・内視鏡手術用支援機器加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・麻酔管理料 I
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・麻酔管理料 II
・植込型除細動器移植術, 植込型除細動器交換術	・放射線治療専任加算(歯科診療以外)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・外来放射線治療加算(歯科診療以外)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・光トポグラフィー(抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの)	・
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	4回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 1 例 / 剖検 0.5%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
メタボリックシンドローム発症における脾臓の役割	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	650,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
川崎病冠動脈病変の機序と治療法の開発:単離血球によるMMPとTIMPの動態の解明	是松 聖悟	小児科	1,560,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
双極スペクトラムと関連する気質の脳機能画像研究	寺尾 岳	精神科	1,560,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
腫瘍におけるFDG取り込みレベルとp53ステータスとの相関性に関する生物学的検討	森 宣	放射線科	130,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
消化管がんの増殖・進展におけるリンパ管新生因子の役割	白石 憲男	消化器外科	1,170,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
レオウイルスナノプローブを用いた微小転移迅速診断法の開発	衛藤 剛	消化器外科	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
ニューロモデュレーション新機軸を駆使した虚血脳の再構築・再教育・再学習系統的戦略	藤木 稔	脳神経外科	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
ビタミンE誘導体ETS-GSを用いた脊髄損傷に対する新規治療法の開発	内納 智子	麻酔科	1,300,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
概日リズムの維持が亜急性疼痛に及ぼす影響の検討	奥田 健太郎	麻酔科	1,300,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
Vav3遺伝子を治療標的としたホルモン抵抗性前立腺癌治療法の開発	野村 威雄	腎臓外科・泌尿器科	390,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
体外フォトフェーシスによる抗原特異的免疫寛容機序の解析	清水 史明	形成外科	390,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
持続血液ろ過透析における新規膜開発の挑戦	安田 則久	麻酔科	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
重症敗血症における酸化ストレス制御を目的とした新たな血液浄化カラムの開発	日高 正剛	麻酔科	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
冷却装置付3D・MRIコイルを備えた電磁ホーン型ESR装置による腫瘍イメージング	上田 徹	脳神経外科	780,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
コチニール色素によるアナフィラキシー その検査法の確立と症例解析	竹尾 直子	皮膚科	780,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
アルツハイマー病の発症機構における無症候性白質病変の意義の解明	木村 成志	神経内科	780,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
生活習慣病におけるアルドステロンによる治療抵抗性高血圧の発症機構の解明	柴田 洋孝	内分泌・糖尿病内科	1,950,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
水道水リチウムと自殺予防:日本全国を対象とした調査	石井 啓義	精神科	2,080,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
高分解MRIによる腎周囲リンパ網の解析	松本 俊郎	放射線科	390,000	補 独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規抗酸化剤ETS-GSによる潰瘍性大腸炎治療法の開発	當寺ヶ盛 学	小児外科	1,820,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
上皮成長因子受容体変異陽性肺癌を対象としたTKI耐性機序の解明	杉尾 賢二	呼吸器外科	1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
in vivoモデルのmiRNA発現解析に基づく前立腺癌浸潤機序の解明	佐藤 文憲	腎臓外科・泌尿器科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
ギャップ結合からみた過活動膀胱の原因解明とテルミサルタンの新規治療薬への応用	森 健一	腎臓外科・泌尿器科	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
子宮内膜症における癒痕形成の病態解明と治療法の開発	奈須 家栄	産科婦人科	1,040,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
精子と子宮内膜の相互作用の解明と新たな着床障害の治療応用に関する研究	河野 康志	産科婦人科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
インフルエンザ菌性慢性中耳炎症病態に対する抗サイトカイン療法および分子標的治療	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
Fibronectin ED-A抑制による増殖硝子体網膜症の制御	木許 賢一	眼科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
フィブロネクチンを活性化するDP-4ペプチドを用いた新規創傷治療法の確立	加藤 愛子	皮膚科学	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
EMPs制御から見た腎代替療法における新規膜素材の開発	後藤 孝治	麻酔科	1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
mTORとオートファジーを制御することによる新しい結節性硬化症治療の確立	宮原 弘明	小児科	650,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
抗癌剤誘発脱毛に対する抗酸化物質DHL-HisZnNaの有用性の検討	中嶋 健太郎	消化器外科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性腸炎・皮膚炎に対する新規抗酸化剤の有効性	杉田 諭	消化器外科	910,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
脳腫瘍における分子標的薬感受性のメカニズム解析	森重 真毅	脳神経外科	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
ラット脊椎固定モデルにおける新しいビタミンE誘導体の骨癒合能の検討	宮崎 正志	整形外科	910,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
光治療の新規メカニズムと治療法の開発	小山 淑正	麻酔科	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト外尿道括約筋に特異的に発現する蛋白の同定と尿失禁治療への応用	秋田 泰之	腎臓外科・泌尿器科	1,170,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
PKC-デルタを標的とした増殖硝子体網膜症の治療	横山 勝彦	眼科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
集合管癌の進行にかかわるゲノム異常の同定	井上 享	腎臓外科・泌尿器科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
ヘリコバクター・ピロリCagA抗体の迅速検出キットの開発	塩田 星児	総合内科・総合診療科	1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
サルコイドーシスにおける肉芽腫形成修飾因子の臨床的応用	竹中 隆一	高度救命救急センター	1,950,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
初期栄養計画の新たな指標としての新生児オートファジー研究	関口 和人	小児科	650,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
角層pH調節機構の異常がアトピー性皮膚炎を誘発する	酒井 貴史	皮膚科	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
エピプラキンはタイト・ジャンクションと連結するか	石川 一志	皮膚科	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
うつ病におけるパルス近赤外線光照射研究	田中 悦弘	精神科	1,820,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
光線照射による新規炎症性腸疾患治療法の開発	平塚 孝宏	消化器外科	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
大腸癌におけるVSNL-1発現亢進の機能的意義の解明	赤木 智徳	高度救命救急センター	1,040,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
長期低酸素環境が前立腺癌細胞の悪性化に与える影響についての研究	山崎 六志	腎臓外科・泌尿器科	1,820,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
子宮内膜症の病態へのがん抑制遺伝子C/EBP α の関与	川野 由紀枝	遺伝子診療室	2,080,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
SOCS遺伝子改変アレルギーマウスモデルにおける中耳局所粘膜免疫応答の解明	川野 利明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
PRP-F療法における創傷治癒促進効果の検討	佐藤 精一	形成外科	910,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
新規DAMPsHSPB8に着目した治療応用への挑戦	麻生 結子	臨床医工学	1,170,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に関わる7p、8q、17q上の責任遺伝子の同定	吉岡 俊一	歯科口腔外科学	2,470,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
低酸素PETを用いた脳腫瘍の遺伝子解析と腫瘍幹細胞をターゲットとした治療法の開発	榎井 泰朋	脳神経外科	780,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
電子スピン共鳴法による胎児酸化ストレスの新しい評価法の開発	西田 欣広	産科婦人科	390,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
中和抗体定説への挑戦: 画期的A β オリゴマー標的ワクチン開発	松原 悦朗	神経内科	1,560,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
肥満症とメタボリック症候群における新規ストレス関連脳内因子の解析	正木 孝幸	内分泌・糖尿病内科	1,950,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
膵 β 細胞特異的TNF α 過剰発現マウスを用いた1型糖尿病発症メカニズムの解明	加隈 哲也	内分泌・糖尿病内科	2,730,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
低分化型胃癌における遺伝子異常の網羅的解析	村上 和成	消化器内科	2,600,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
緑膿菌性肺感染症の新しい制御戦略-抗原刺激成熟樹状細胞の移入によるワクチン開発	門田 淳一	呼吸器内科	1,690,000	補 独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
RNAiを用いた緑膿菌バイオフィルム感染症に対する新しい治療戦略	平松 和史	呼吸器内科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
表皮角化細胞のPPAR α 低下は、アトピー性皮膚炎の誘導と悪循環に關与する。	波多野 豊	皮膚科	2,080,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
増殖因子の導入を目的とした新しい創傷治療剤の開発	岡本 修	皮膚科学	1,820,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
ナノ炭素複合素材と電界紡糸技術を用いた高生体適合性細径カバードステントの開発	本郷 哲央	放射線科	3,900,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
遅発性活性酸素が關与する放射線抵抗性獲得機構の解明	菓子野 元郎	先端分子イメージングセンター	2,080,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
水溶性ビタミンE誘導体の脳保護作用の検討(スピン共鳴解析を用いて)	北野 敬明	麻酔科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
敗血症性ショックの機序の解明とリアルタイム測定によるビタミンC補充療法の確立	松本 重清	麻酔科	1,820,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
新規抗酸化物質ETS-GSを用いた次世代脳保護薬の開発	古賀 寛教	麻酔科	1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
尿道組織における細胞外マトリクスが尿禁制に及ぼす機能的、形態学的検討	住野 泰弘	腎臓外科・泌尿器科	2,080,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
樹状細胞を標的とした経鼻ワクチンの臨床応用に向けた研究	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
Toll様受容体アゴニストを用いた上気道粘膜免疫誘導と機序の解明	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	1,820,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
扁桃周囲膿瘍発症機序解明と予防戦略の確立	渡辺 哲生	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
マイクロRNAを標的とした新しい心筋保護治療の構築	手嶋 泰之	循環器内科	1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌に対するインテグリン機能を標的とした浸潤・転移抑制療法の確立	河野 憲司	歯科口腔外科	2,990,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
c-Mycの異常発現によるエピジェネティクス変化が染色体転座に与える影響	糸永 一朗	整形外科	2,210,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
尿失禁に対する再生療法を目指した線維芽細胞から外尿道括約筋細胞への直接誘導法開発	秦 聡孝	腎臓外科・泌尿器科	1,950,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
拡散テンソル画像で双極性障害とうつ病を弁別する試み	秦野 浩司	精神科	650,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
脊髄二次性損傷の炎症・免疫制御機構の解明と運動機能再建	内田 晋	脳神経外科	260,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
マウス骨肉腫における腫瘍感作、Foxp3発現樹状細胞による抗腫瘍効果	河野 正典	整形外科	1,040,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
子宮内膜症におけるアポトーシス受容体DR6の発現低下と病態形成への關与	甲斐 健太郎	産科婦人科	650,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
microRNAは子宮内膜症間質細胞の病態形成に関与する	阿部 若菜	遺伝子診療室	1,950,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌における局所免疫応答の解明と新規ワクチンの開発	能美 希	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
自殺企図患者の血中の3系不飽和脂肪酸に関する研究	帆秋 伸彦	精神科	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
角膜神経障害に伴う有害事象の時間生物学的予防法の確立	楠瀬 直喜	眼科	1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
小児期のホルモンと免疫系細胞・脂肪細胞の分化増殖ネットワークの解明	井原 健二	小児科	910,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
治験の実施に関する研究[ブリアントブルーG250]	久保田 敏昭	眼科	900,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

小計 6

計 85

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	是松 聖悟	小児科	Central retinal vein occlusion in a pediatric patient with SLE and antiphospholipid antibodies without anti-cardiolipin or anti- β 2 glycoprotein I antibodies.	BMC Pediatrics 14, 116, 2014
2	是松 聖悟	小児科	A new cholesterol biosynthesis and absorption disorder associated with epilepsy, hypogonadism, and cerebro-cerebello-bulbar degeneration.	Pediatr Neurol 50(6), 601-4, 2014
3	前田 知己	小児科	Exacerbation of benign familial neonatal epilepsy induced by massive doses of phenobarbital and midazolam.	Pediatr Neurol 51(2), 259-61, 2014
4	内山 伸一	小児科	The muscle findings in a pediatric patient with live attenuated oral polio vaccine-related flaccid monoplegia.	Vaccine 32(42), 5379-81, 2014
5	是松 聖悟	小児科	Elevated serum anti-phosphatidylcholine IgG antibodies in patients with influenza vaccination-associated optic neuritis.	Vaccine 32(48), 6345-8, 2014
6	渡辺 哲生	耳鼻咽喉科	Clinical study of papillary thyroid carcinoma	Otology & Rhinology, J Otol Rhinol 2014 4(1), 1623717, 2015
7	山本 哲彰	歯科口腔外科	Anti-EGFR monoclonal antibody 12-93 inhibits the growth of human salivary adenocarcinoma via sub-G1 arrest and induction of apoptosis	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 26(2), 183-187, 2014
8	吉川 裕喜	呼吸器内科	Long-term macrolide antibiotic therapy may prevent the development of pneumonia in the elderly.	Journal of Palliative Medicine 17(7), 749-750, 2014
9	平川 東望子	産科婦人科	Wisteria floribunda agglutinin-binding glycan expression is decreased in endometriomata	Reproductive biology and endocrinology 12(1), 100, 2014
10	岡本 真実子	産科婦人科	Enhanced miR-210 expression promotes the pathogenesis of endometriosis through activation of signal transducer and activator of transcription 3.	Hum Reprod 30(3), 632-641, 2015
11	酒井 貴史	皮膚科	Defective maintenance of pH of stratum corneum is correlated with preferential emergence and exacerbation of atopic-dermatitis-like dermatitis in flaky-tail mice.	Journal of Dermatological Science 74(3), 222-228, 2014
12	酒井 貴史	皮膚科	Co-stimulation with interleukin-4 and tumor necrosis factor- α increases epidermal innervation accompanied by suppression of semaphorin 3A.	Journal of Dermatological Science 76(1), 69-71, 2014
13	伊藤 亜希子	皮膚科	Association between HLA-DRB1*0405, -DQB1*0401 and -DQA1*0303 alleles and lamotrigine-induced cutaneous adverse drug reactions. A pilot case-control study from Japan	Journal of Affective Disorders 179, 47-50, 2015
14	鈴木 陽介	薬剤部	Significant decrease in plasma N-Acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline level in patients with end stage renal disease after kidney transplantation	Biological and Pharmaceutical Bulltein 37(6), 1075-1079, 2014

小計 14

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
15	鈴木 陽介	薬剤部	A retrospective analysis to estimate target trough concentration of vancomycin for febrile neutropenia in patients with hematological malignancy	Clinica Chimica Acta 440, 183-187, 2015
16	油布 邦夫	循環器内科	Plasma norepinephrine is an independent predictor of adverse cerebral and cardiovascular events in type 2 diabetic patients without structural heart disease.	Journal of Cardiology 64(3), 225-230, 2014
17	篠原 徹二	循環器内科	Combination therapy of cilostazol and bepridil suppresses recurrent ventricular fibrillation related to J-wave syndromes.	Heart Rhythm 11(8), 1441-1445, 2014
18	齋藤 聖多郎	循環器内科	Glucose fluctuations increase the incidence of atrial fibrillation in diabetic rats.	Cardiovascular Research 104(1), 5-14, 2014
19	篠原 徹二	循環器内科	Cardiac autonomic dysfunction in patients with head-up tilt test-induced vasovagal syncope.	Pacing and Clinical Electrophysiology 37(12), 1694-1701, 2014
20	田村 彰	循環器内科	Reliability of ST-segment shifts in the synthesized V ₃ R-V ₅ R leads after coronary balloon inflations during percutaneous coronary intervention.	American Journal of Cardiology 114(8), 1187-1191, 2014
21	大西 晃平	脳神経外科	The clinical and pathological significance of nitric oxide synthase in human pituitary adenomas: a comparison with MIB-1.	Endocrine 46(1), 154-159, 2014
22	杉田 憲司	脳神経外科	Usefulness of pulsed arterial spin-labeling MRI for localizing a seizure focus: a surgical case.	Seizure 23(4), 318-320, 2014
23	本郷 哲央	放射線科	Double Coaxial Microcatheter Technique for Transarterial Aneurysm Sac Embolization of Type II Endoleaks after Endovascular Abdominal Aortic Repair	Journal of Vascular and Interventional Radiology 25(5), 709-716, 2014
24	小野 麻美	放射線科	A comparative study of thin-section CT findings between seasonal influenza virus pneumonia and Streptococcus pneumoniae pneumonia	British Journal of Radiology 87(1039), 20140051, 2014
25	田上 秀一	放射線科	Fusion imaging using subtracted and unsubtracted rotational angiography for pretherapeutic evaluation of dural arteriovenous fistulas.	Japanese Journal of Radiology 32(10), 600-607, 2014
26	岡田 文人	放射線科	Chest HRCT findings in acute transformation of adult T-cell lymphoma/leukemia	European radiology 25(6), 1607-1613, 2015
27	片山 陽介	薬剤部	Therapeutic window of lamotrigine for mood disorders: a naturalistic retrospective study	Pharmacopsychiatry 47(3), 111-114, 2014
28	河野 健太郎	精神科	Dose-dependent effects of light on hyperthymic temperament	Journal of affective disorders 162, 26-29, 2014
29	寺尾 岳	精神科	Lithium in Drinking Water for Dementia and Suicide	Austin Journal of Psychiatry and Behavioral Sciences 1(5), 2, 2014
30	塩月 一平	精神科	Lithium tremor, beta-blockers, and depression	Acta Psychiatrica Scandinavica 130(1), 72-73, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
31	寺尾 岳	精神科	Reply to the Letter from Grunze and Walden	Pharmacopsychiatry 47(7), 270, 2014
32	児玉 健介	精神科	Identification of the neural correlates of cyclothymic temperament using a working memory task in fMRI	Journal of Affective Disorders 171, 1-5P, 2014
33	石井 啓義	精神科	Low Risk of Male Suicide and Lithium in Drinking Water	The Journal of Clinical Psychiatry 76(3), 319-326, 2015
34	寺尾 岳	精神科	Is lithium potentially a trace element?.	World Journal of Psychiatry 5(1), 1-3P, 2015
35	前島 圭祐	膠原病内科	Successful leukocytapheresis therapy in a patient with rheumatoid arthritis on maintenance hemodialysis.	Mod Rheumatol 25 (1), 154-157, 2015
36	小手川 勤	臨床薬理センター	The effect of experimentally induced sleep disturbance on the pharmacokinetics of lorazepam in healthy volunteers.	International Journal of Clinical Pharmacology & Therapeutics 52(6), 519-524, 2014
37	宮崎 正志	整形外科	Enhancement of the effects of exfoliated carbon nanofibers by bone morphogenetic protein in a rat femoral fracture model.	J Orthop Res 33(2), 185-192, 2015
38	加来 信弘	整形外科	Influence of the volume of bone defect, bone grafting methods, and hook fixation on stress on the Kerboul-type plate and screw in total hip arthroplasty: three-dimensional finite element	Eur J Orthop Surg Traumatol 25(2), 321-329, 2015
39	加来 信弘	整形外科	Fixation strength at the interface between Kerboul-type plate and bone cement.	J Orthop Surg (Hong Kong) 22(3), 347-350, 2014
40	吉岩 豊三	整形外科	Predictable imaging signs of cauda equina entrapment in thoracolumbar and lumbar burst fractures with greenstick lamina fractures.	Asian Spine J 8(3), 339-345, 2014
41	和田 朋之	心臓血管外科	A new method for protection from shower embolism during TEVAR on a shaggy aorta	General thoracic and cardiovascular surgery 63(2), 105-108, 2015
42	小森 陽子	消化器外科	Effects of different pressure levels of CO2 pneumoperitoneum on liver regeneration after liver resection in a rat model	Surgical Endoscopy and Other Interventional Techniques 28(8), 2466-2473, 2014
43	猪股 雅史	消化器外科	A randomized controlled trial comparing laparoscopic surgery with open surgery in palliative resection of primary tumor in incurable Stage IV colorectal cancer: Japan Clinical	Japanese Journal of Clinical Oncology 44(11), 1123-6, 2014
44	猪股 雅史	消化器外科	Comparing incidence of enterocolitis after laparoscopic and open low anterior resection for stage II/III rectal cancer	Asian journal of endoscopic surgery 7(3), 214-21, 2014
45	平塚 孝宏	消化器外科	Phototherapy with artificial light suppresses dextran sulfate sodium-induced colitis in a mouse model	Journal of Gastroenterology and Hepatology 29(4), 749-756, 2014
46	中嶋 健太郎	消化器外科	Quality control by photo documentation for evaluation of laparoscopic and open colectomy with D3 resection for stage II/III colorectal cancer: Japan Clinical Oncology Group study	Japanese Journal of Clinical Oncology 44(9), 799-806, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
47	塩田 星児	総合内科・総合診療科	Virulence genes of Helicobacter pylori in the Dominican Republic.	Journal of Medical Microbiology 63(Pt 9), 1189-1196, 2014
48	塩田 星児	総合内科・総合診療科	Helicobacter pylori from Gastric Cancer and Duodenal Ulcer Show Same Phylogeographic Origin in the Andean Region in Colombia.	PLoS ONE 9(8), e105392, 2014
49	安東 優	呼吸器内科	Unilateral hyperlucent lung associated with bronchial atresia mimicking Swyer-James syndrome.	Respir Care 59(11)., e182-5., 2014
50	向井 豊	呼吸器内科	Exophiala dermatitidis pneumonia successfully treated with long-term itraconazole therapy.	Journal of Infection and Chemotherapy 20(7)., 446-9., 2014
51	大津 智	腫瘍内科	Neurological Toxicity in Metastatic Colorectal Cancer Patients Treated with Modified FOLFOX6 Plus Bevacizumab.	Japanese Clin Med 5, 19-23, 2014
52	溝上 義則	精神科	Difference in brain activations during appreciating paintings and photographic analogs	Frontiers in Human Neuroscience 8, 478, 2014
53	溝上 義則	精神科	Identification of the neural correlates of cyclothymic temperament using an esthetic judgment for paintings task in fMRI	Journal of Affective Disorders 169, 47-50, 2014
54	小宮 幸作	呼吸器内科	Long-term, low-dose erythromycin monotherapy for Mycobacterium avium complex lung disease: A propensity score analysis	International Journal of Antimicrobial Agents 44(2), 131-135, 2014
55	小林 治	小児科	Progressive dysautonomia in two patients with xeroderma pigmentosum group A.	Pediatric Neurology 50(6), 619-621, 2014
56	石井 寛	呼吸器内科	Chest computed tomography findings in patients with angioimmunoblastic T-cell lymphoma.	Respiratory Investigation 52(4), 265-268, 2014
57	小宮 幸作	呼吸器内科	Evaluation of prognostic differences in elderly patients with pneumonia treated by between pulmonologists and non-pulmonologists: A propensity score analysis	Clinical Respiratory Journal 10, 1111, 2014
58	呉 偉民	皮膚科	Functional peptide of dermatopontin produces fibrinogen fibrils and modifies its biological activity.	Journal of Dermatological Science 76(1), 34-43, 2014
59	札幌 博貴	脳神経外科	An adult case of cerebral malakoplakia successfully cured by treatment with antibiotics, bethanechol and ascorbic acid.	Journal of the Neurological Sciences 342, 192-196, 2014
60	札幌 博貴	脳神経外科	Comparison of multiple parameters obtained on 3T pulsed arterial spin-labeling, diffusion tensor imaging, and MRS and the Ki-67 labeling index in evaluating glioma grading.	American Journal of Neuroradiology 35(11), 2091-2098, 2014
61	石飛 佳宣	精神科	Association of microcephalin 1, syntrophin-beta 1, and other genes with automatic thoughts in the Japanese population	American Journal of Medical Genetics Part B: Neuropsychiatric Genetics 165B(6), 492-501, 2014
62	津留 壽船	精神科	Association of BDNF Val66Met polymorphism with HPA and SAM axis reactivity to psychological and physical stress	Neuropsychiatric Disease and Treatment 10, 2123-2133, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
63	吉里 恒明	臨床薬理センター	Determination of domperidone in human plasma using high performance liquid chromatography with fluorescence detection for clinical application.	Journal of Chromatography B Analytical Technology Biomedical Life Science 961, 86-90, 2014
64	本郷 哲央	放射線科	"Squid-capture" modified in situ stent-graft fenestration technique for aortic arch aneurysm repair.	Cardiovascular and interventional radiology 37(4), 1093-8, 2014
65	秦野 浩司	精神科	How do affective temperaments develop into bipolar disorders?	Journal of Psychiatry and Behavioral Science 1(1), 1-2P, 2014
66	佐藤 竜太	腎泌尿器外科	Angiopoietin-like protein 2 induces androgen-independent and malignant behavior in human prostate cancer cells.	Oncology Reports 33(1), 58-66, 2015
67	成松 隆弘	腎泌尿器外科	Downregulation of NDUFB6 due to 9p24.1-p13.3 loss is implicated in metastatic clear cell renal cell carcinoma.	Cancer Medicine 4(1), 112-24, 2015
68	菓子野 元郎	先端分子イメージングセンター	Comparison of the biological effects of (18)F at different intracellular levels	Biochemical and Biophysical Research Communications 454(1), 7-11, 2014
69	小森 陽子	消化器外科	Mammalian target of rapamycin signaling activation patterns in pancreatic neuroendocrine tumors	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 21(4), 288-95, 2014
70	草野 徹	消化器外科	Evaluation of 0.6% sodium alginate as a submucosal injection material in endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer	Digestive Endoscopy 26(5), 638-45, 2014
71	草野 徹	消化器外科	A comparison of laparoscopic and open surgery following pre-operative chemoradiation therapy for locally advanced lower rectal cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology 44(4), 305-10, 2014
72	草野 徹	消化器外科	CO2 pneumoperitoneum increases secretory IgA levels in the gut compared with laparotomy in an experimental animal model	Surgical Endoscopy and Other Interventional Techniques 28(6), 1879-85, 2014

小計 10
計 72

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 マネジメントの対象、委員会、審査内容、手続き等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 0 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合にはその主なポイントの解説を行っている。	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・救急科専門医育成プログラム ・内視鏡外科専門医育成プログラム ・総合診療医・家庭医 養成プログラム ほか

2 研修の実績

研修医の人数	67.25 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
重光 修	救急科	教授	34年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	24年	
猪股 雅史	消化器外科, 小児外科	教授	27年	
久保田 敏昭	眼科	教授	33年	
杉尾 賢二	呼吸器外科, 乳腺外科	教授	33年	
梅木 健二	呼吸器内科	助教	18年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	32年	
檜原 久司	産科婦人科	教授	32年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	31年	
大津 智	腫瘍内科	助教	18年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	28年	
井原 健二	小児科	教授	20年	
沖本 忠義	消化器内科	助教	23年	
花岡 拓哉	神経内科	助教	16年	プログラム別
木村 成志	神経内科	准教授	18年	プログラム別
柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	教授	27年	
糸永 一朗	整形外科	講師	24年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	32年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	29年	
藤原 作平	皮膚科	教授	30年	
森 宣	放射線科	教授	37年	
幸野 和洋	血液内科	助教	21年	
廣田 潤	心臓血管外科	講師	29年	
北野 敬明	麻酔科	教授	27年	
寺尾 岳	精神科	教授	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容，期間・実施回数，参加人数</p> <p>【看護部】 別紙 1 のとおり</p> <p>【放射線部】 別紙 2 のとおり</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>新採用者オリエンテーションにより，「個人情報保護」，「院内感染対策」，「医療安全管理」等，本院において医療業務に携わる上で，各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>平成 26 年 4 月 1 日（火）～平成 26 年 4 月 2 日（水） ※採用者があり次第，各部門にて随時実施</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>84 名</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>○研修会名：大分県内の薬局薬剤師を対象としたフィジカルアセスメント講習会 ○内容：がん，循環器疾患等におけるフィジカルアセスメントの基本（バイタルサイン，身体診察など）および医薬品による副作用モニタリングの方法について，大分大学医学部医師を講師として実習形式で実施。</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>○平成 26 年度（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 26 日） 計 12 回</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>○平成 26 年度 192 名</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については，医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき，がん，循環器疾患等の疾患に関し，高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また，日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 津村 弘	
管理担当者氏名	総務課長 安東ゆか, 医事課長 吉野勉, 薬剤部長 伊東弘樹, 放射線部長 森宣, 医療安全管理部長 三股浩光, 研究協力課長 比江島孝司	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科 各診療施設 医事課	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式で、コンピューターによる集中管理を行っている。また、エックス線写真は、放射線部において一患者一ファイルで管理を行っており、共に永久保存を原則としている。なお、診療録の病院外への持ち出しについては、診療録の取扱いに関する手引きの遵守すべき事項にて、病院外へ持ち出さないこととしている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課 総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項の各号状及び第九条の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課 (医療安全管理部)	医療事故報告の記録については統計処理が行えるよう、データ化して保管している
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課 (医療安全管理部)	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 (感染制御部)
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医事課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医事課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理専門委員会
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理専門委員会
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理専門委員会

保守点検に関する書類は装置ごと、他は年度ごとにファイルしている。また、院内の各端末からアクセスできる医療機器安全管理システムを用いて各情報の登録・閲覧・周知の院内統一管理を可能としている。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 原 博文		
閲覧担当者氏名	総務課長 安東 ゆか		
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室		
閲覧の手続の概要			
・ 閲覧を希望するものは、総務課に申込みを行う。			
・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ①医療安全管理に関する基本的考え方 ②医療安全管理に係る体制確保のための組織等 ③医療安全管理に係る職員の教育・研修 ④医療事故発生時の対応 ⑤医療事故等の報告及び改善策の立案 ⑥当該指針の閲覧 ⑦患者相談に関する基本方針 ⑧その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告等）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年13回
・ 活動の主な内容： ①医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること ②医療事故の判定に関すること ③医療安全管理に関する改善策に関すること ④医療安全管理のための職員研修に関すること ⑤医事紛争に関すること ⑥その他医療安全管理上の重要事項に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容： ①ポケット版マニュアル ②第1回薬剤セミナー ③第1回ME機器講習会 ④院内の自殺対策 ⑤第2回ME機器講習会 ⑥平成26年度インシデント報告・総括	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。 2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（1名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任（2）名 兼任（18）名 ・ 活動の主な内容： 1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること 2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること	

<ul style="list-style-type: none"> 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと 4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと 5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 6. 医療内容についての相談等に関すること 7. 医療安全に係る連絡調整に関すること 8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること 9. 医療安全の推進に関すること 	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p>☑・無</p>

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①院内感染に対する基本的考え方②院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項③院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針④感染症の発生状況の報告に関する基本方針⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針⑥患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針⑦その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①感染予防対策の確立②感染予防の実施，監視及び指導③感染源の調査④感染予防対策に関する情報の収集⑤その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①針刺し・切創防止対策②薬剤耐性菌を生み出さないためにできること～消毒薬と抗菌薬の観点から～③慢性創傷からの感染およびその重症化を予防するためには④当院のインフルエンザ・アウトブレイク事例から学ぶこと	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内の菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な感染菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており，注意を要する抗菌薬については届出制とし，感染制御部の介入を実施している。感染制御部及びリンクナースによる院内ラウンドを定期的に行い，標準予防策や感染対策の実施状況の確認，指導を行っている。また，各種感染症サーベイランスも行っており，定期的に報告を行っている。マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については，病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに，感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回 (ビデオセミナーを含む)
・ 研修の主な内容： ○コ・メディカル新採用者オリエンテーション（対象：コ・メディカル新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○医療安全管理セミナー（対象：全職員）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ） ・ 業務の主な内容： 平成 27 年 8 月に全病棟・部門を対象に実施し、確認内容を保管記録している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。 DI ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、その他必要に応じて通知文書として配布	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 4 回
<p>・ 研修の主な内容： ①医療機器の有効性・安全性に関する事項、②医療機器の使用方法に関する事項、③医療機器の保守点検に関する事項、④医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項、⑤医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項等の内容に関しての研修を実施する。 全職員対象にはME機器センターが医療安全管理部と連携し、医療安全管理セミナー内で年2回、定期的実施。新卒医療従事者については、年度始めにオリエンテーション等で定期的実施。なお、上記以外の研修については、当該医療機器に携わる医療従事者等を対象に実施。研修計画の策定および実施状況については、医療機器安全管理専門委員会にて報告・承認としている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： それぞれの医療機器の機種名、製造番号、購入年、製造販売業者名等の基本情報とともに使用状況、保守点検の実施状況や修理状況等を記録・保存し、機種別に保守点検計画を策定し、医療機器名、型式、保守点検をする予定時期や間隔等を記載した保守点検計画の策定している。 。なお、保守計画の策定および実施状況については、医療機器安全管理専門委員会にて報告・承認としている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の不具合情報や安全性情報等の安全使用のために必要な情報を厚生労働省や県、公的機関、製造販売業者等から一元的に経営管理課内の担当部署で、医療機器、医療材料を整理して収集する。なお、医薬品医療機器総合機構の医療機器情報配信サービス (PMDAメディナビ) に医療機器安全管理責任者等は登録を行い、情報の収集に努める。 得られた情報は院内メールにて、病院長、医療機器安全管理責任者等へ報告するとともに医療機器安全管理システム等にて、対象の医療機器や使用部署、納入業者等を特定し、医療機器安全管理責任者の指示にて対応する。必要に応じて医療安全管理部や感染制御部、材料部等と連携し、対応する。 対応状況や結果については、医療機器安全管理責任者名でリスクマネージャー及び関係部署へメール等を用いての周知を行うとともに医療機器安全管理専門委員会にて経営管理課より報告を行う。 また、ME機器センター等からの注意喚起や全職員対象のセミナーにて注意喚起を実施している。 MDIC取得や各種研修会や講習会への参加。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・病院ホームページによる情報発信 ・診療科情報等を掲載した病院ガイド (冊子) の作成・配付 (県内医療機関及び全国の特定機能病院等宛て) ・県内関連病院長連絡会議の開催 (年 1 回)	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・チーム医療を実践しており、外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等を組織し、複数診療科の医師および多職種のスタッフが連携して対応している。	